

## 第14回県政ひざづめ談議結果概要

○実施日時：平成20年10月16日 19:00～

○開催場所：山梨県中小企業会館

〔司会〕

皆様、大変お待たせいたしました。

ただいまから知事対話『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。

本日の進行役を務めさせていただきます、県の広聴広報課長、田中でございます。よろしく願いいたします。

それでは、早速知事からごあいさつをお願いいたします。

〔知事〕

皆様、こんばんは。今日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

本日お集まりの異業種交流青中倶楽部の皆さんは、それぞれご自分で事業をお持ちになって、非常に苦勞しながら事業を經營しておられる、若手の、将来の山梨県の経済を背負って立つ皆さん方です。そういう中でいろんなご意見があるんじゃないかなと思います。

「ひざづめ談議」というのは、各界、各層、いろんな分野で活躍、活動しておられる県民の皆さん、大体20人ぐらいから、ざっくばらんに、普段お考えになっていることを色々聞かせていただく、そういう場です。そういう場でもありますので、思いのたけをお話いただければありがたいと思うわけがあります。

さて、世界経済が非常に騒然たる状況になって参りました。アメリカのサブプライム問題から端を発して、金融バブルが崩壊し、世界同時株安というような状況になり、それが実体経済に波及して、世界同時不況というような状況になってきているわけです。これから半年、あるいは1年、日本経済を含め、山梨県の経済も下降線をたどっていくだろうということで、これからの状況は非常に厳しいものになっていくだろうと思うわけがあります。

私としては、山梨県内の中小、零細企業の皆さんに、この苦境を、何とか一つ歯を食いしばって乗り切っていただきたいと、そういう思いでいっぱいあります。そういう思いから県の行政でも色々な手を打ってきているところであります。

例えば原油価格が上がって、去年の暮れから景気が落ちてきましたね。それで早速、今年の1月「原油・原材料価格高騰対策緊急融資」という融資制度を作ったわけです。原油価格の高騰だけではなくて、景気の落ち込みによって売上げが落ちている、売上げが落ちると当然資金繰りに困ってくるわけですから、そういう企業の皆さんに対して、運転資金を融資するという制度を作りました。

無担保で、それから保証人についても、その会社の社長さんには保証人になってもらいますが、従来よくあるように親類の保証人を取ってこいとかそういうことは言わないで、4千万円の範囲内で運転資金を融資するということにしたわけがあります。

それが1月に始まって、9月末で合計580件、90億円融資を実行いたしました。し

たがって、580の中小、零細企業の皆さんが、この制度を使って当面の苦境を何とか乗り切ってきてくれているわけであります。その資金がよく使われて、予算が足りなくなってきたものですから、この9月の県議会ではその予算を拡充しまして、どんなにたくさんの方から融資の応募があっても大丈夫なように手当をいたしました。

今国会では補正予算の審議が行われていて、成立すると思えますけれども、それに対応した県の景気対策の第二弾も、12月県議会で補正予算に出していきますし、また来年度の当初予算にも景気対策は盛り込んでいきたいと思っております。

皆さん方にはそういう県の融資制度、その他を使いながら、この苦しい時期を、歯を食いしばって乗り切っていただきたいと思うわけであります。今のような制度を余りご存知ない方がいますから、もし資金繰りに困っているような人がいたら、そういう県の緊急融資制度があるよということを教えてあげていただければありがたいと思います。

それからもう一つ皆さんにお願いしたいことがあります。ピンチはチャンスでもあるわけです。確かにこれからずっと苦しくなる。しかし経済は必ず循環しますから、悪いばかりじゃない。半年とか1年後には必ず景気は回復してくるわけであります。景気が回復してよくなってきてから、さあ俺の会社はこれから何をやろうかなんて考えてもしょうがないわけであって、自分の会社を将来どういう方向に持っていくのかということを考えるのは、やっぱり不況の時期なんです。この不況の時に、不況に耐えながら、将来の飛躍を期して自分の会社をどう持っていくのかということを考えていかなければならない。景気がよくなってから、さあ何か考えようなんていったって、今度は景気が悪くなっちゃうわけですからね。そういうことで、この厳しい時期に、自分たちの会社をこれからどう持っていくのか考えていただきたい。商品開発もいいでしょうし、新しい販路拡大もいいでしょうし。そんな準備を是非始めていただきたいというふうに思っているわけであります。

一つちょっとことわざ的なことを言いますと、ドイツの有名な哲学者、ヘーゲルという人の言葉に、「ミネルヴァのフクロウは黄昏時に飛び立つ」というのがあるんですね。ミネルヴァは知恵の神様、西洋ではフクロウはその神様のお使いと言われていています。その知恵の神様のお使いは黄昏時に飛び立つ。その意味は、要するに社会が黄昏れた時、社会が停滞している時に、次の時代を興すような新しい知恵が生まれるんだということを言っているわけですね。社会が非常に停滞している時こそ、次の時代を、新しい知恵を作り出す時だという意味だと思ふんです。

皆さん方はまだお若いわけですから、自分たちの会社を将来どう持っていくのか、この苦しい時期に考え、そして準備をしていただきたい。県にはそういう取り組みに対して支援する制度がありますから、是非相談していただきたいと思います。

私からそういう話を申し上げて、あとは私の話にこだわらずに、普段お考えになっていることを、もちろん質問でも結構ですし、出していただければありがたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

〔司会〕

それでは同席しております県の商工労働部の課長をご紹介します。

まず、中小企業の指導育成などを担当しております飯沼商工総務課長です。

企業への資金の貸付、それから中心市街地の活性化対策などを担当しております岩波商

業振興金融課長でございます。

それから、経営革新などの支援を担当しております清水工業振興課長であります。

本日は異業種交流の青中倶楽部の皆様と「活力ある産業の振興」をテーマに意見交換を進めて参りたいと思います。忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

〔参加者〕

私は甲府の中心でレストランと、ワインのフードコーディネーターをしております。ワインが専門ですので、県産のワインについて話をさせていただきます。

県産のワインはすごくクオリティーが高いものが多いですね。ですがやはり世界のワインと比べると、ブランド力が弱い感じがします。

同じクオリティーのワインと比べると値段がちょっと高いんですね。県産の、世界で戦えるワインというどうしても2千円を超えてしまう。現場で感じることなんですけど、2千円のワインといいますと、ちょっと考える方も多いんですね。

2千円は仕入の値段なので、例えばレストラン、ホテルですともっと高くなります。原価率50%にすると、2千円のワインを4千円で売ることになります。そうすると飲む機会は少なくなりますよね。ちょっと高いな、国内のワインなのに4千円もするんだということになってしまうと、飲んでいただくチャンスが少なくなってきます。

ブランドとして確立できれば、よりクオリティーの高いものを開発できますし、県産の高級ワインとして、フランス産のものと戦える可能性も秘めていると僕は思うんですよ。

山梨のワインはおいしいということをまず日本から始めて、そして世界に認めさせることが大事かなと思っているんですけど、それを広めて提供するにあたって、県からワイン業界に対して何らかの補助などがあれば売り出しやすし、広めやすいかなと感じています。

〔知事〕

なるほど。私もあなたの言っていることと全く同じことを考えていまして、そのとおりなんですよ。酒屋さんで2千円だと、レストランとなると確かに4千円ぐらいになっちゃうし、また酒屋さんで買って飲むにしても、ワイン好きの人が普通に飲むというわけにはいきませんよね。やっぱり1,200円とか1,500円ぐらいですね。家庭で飲むとなると、そのぐらいで飲めるということでないといかんと思いますね。

ただ、最近では1,500円ぐらいでも、甲州ワインならかなりいい物が出てくるようになりました。1,500円の甲州ワインと、それからヨーロッパから来た1,500円の白ワインと比べた時に、コストパフォーマンス的に十分匹敵するような、いい甲州ワインは出てきましたね。

ただ国産の赤ワインとなると、やっぱり3千円とか4千円出さないと。したがってレストランに行けば1万円とか、そのぐらい出さないとヨーロッパのワインに匹敵するいい物はないということはあると思いますよ。

昨日たまたまイタリアのワイン協会の会長が来たんですよ。彼は、甲州ワインをヨーロッパに出したらいいじゃありませんかと、こう言うんです。ですが、甲州ワインを向こうに持っていくと、どうしたって向こうの白ワインと比べる。ヨーロッパに持っていけば値

段が高くなってしまって、同じ値段ならイタリアの白ワインのほうがおいしいということになってしまうんじゃないかと言ったら、いや知事さん、そんなことは全く心配する必要はないですよ。売れますよ、売り方なんです。それこそブランドなんですと言うんですね。

どうやってブランドを付けるか。つまり物語性ですね。ブランドというのは色々ありますが、やっぱり飲んでみたいという何かが、単にワインであるだけでなく、プラスアルファが付けばいい、そうすれば高くたって売れますよと、こう言うんですね。

今私が一生懸命やっているんですけれども、皆さんもご存知のとおり甲州ワインというのは和食に合うワインですよ。和食を食べるのに甲州ワインを飲まないで何が和食かというようなことを言うとか、それからこれは原茂ワインさんがやったんですけれども、前のフランス大統領、シラクさんの退任パーティーに、原茂ワインさんの甲州ワインが出たと言われているわけです。シラクさんが評価をしたからこそ、そういうことになったんだろうと思うんですけれども。

そうするとワインの本場フランスのシラク大統領が、甲州ワインを評価して、自分の退任パーティーに使ったんだと、そういうことを発信していけば、十分ブランド性が出て、ヨーロッパのものにだって十分匹敵するというふうに言っていましたけど。そういうことだと思えますね。それはやっていかなければいかんと思えます。

いよいよ来年度から本格的に甲州ワインを海外に出していこうとしています。結構ヨーロッパのワインの専門家が、甲州ワインを出したらいいじゃないかということをお勧めするんですよ。だから山梨のワイナリーの皆さんもいよいよ本気になりましてね。これは経済産業省の補助金をもらい、県も補助金を出して、3千万ぐらいで甲州ワインの輸出というプロジェクト、ジャパブランドという事業なんですけど、それで出していこうということになったんです。そんなことをやっていこうと思っているんですね。

〔参加者〕

ブランドの話が出たんですけれども、今山梨県で富士山ブランドというのをやっていますよね。どのぐらい前からやっているのか分かりませんが、僕が知ったのは、多分2、3カ月前です。

例えばワインだと、麻屋葡萄酒さんが二品。そして鰺沢町交流センターさんが一品、このぐらいしかないんですよ。やはりブランドというからには、何でもかんでも富士山ブランドを付けるというよりも、ある程度ハードルを高くしておいて、誰でも使えるものではなく、みんなが是非使いたいと思うように、そういうふうにしておかないと、今のままでは富士山ブランドが格好いいとはあまり思えないんですよ。県外とか世界から見たときに、富士山ブランド、だからと言って何なの？ということになってしまうと思うんです。

やっぱり山梨県発のブランドであれば、基準が高くて、たくさん品物の中で、選りすぐりの良い物、レベルの高い物が山梨ブランドだと、そういう戦略のほうが価値が上がると思うんですが・・・。

〔知事〕

それはそのとおりですよ。富士山ブランドというのは・・・。

〔工業振興課長〕

私どもの課で18年の3月に商標登録しました。

〔知事〕

ワインなんかもやっていたっけ。

〔工業振興課長〕

ワインに限らず、山梨県内で製造されたものであればいいということで、現在約70点ぐらいあります。それから今年に入りまして、セブンイレブン、ローソンでも是非使いたいという引き合いも来ておりまして、セブンイレブンですと、例えば山梨県の地域限定商品がございますよね。ああいうものに・・・。

〔参加者〕

地場産業の物であればいいみたいですけど、何でもかんでもとは言わないまでも、申請をすれば相当使えるんですよ。

〔工業振興課長〕

そうですね。

〔知事〕

一定の質はもちろん確保するんだよね。

〔参加者〕

でも富士山ブランドで使いたいと思わないんですよ。

〔知事〕

どうしてですか？

〔参加者〕

普通の品物に富士山ブランドと付いているので・・・。

やはりもっとハードルを高くしてもらいたいです。そうすればそのブランドを取れるように努力するし、使いたいと思うんですけど。

〔知事〕

なるほど。

〔参加者〕

皆さんご存知かと思いますが、私たちがワイン、チーズ等を見る時に基準にするものの一つが原産地呼称です。フランスですとAOC、イタリアですとDOCGですね。AOCを付けるにはこれだけの基準を満たさないと取れないですよと決まっています。それ

を基準に僕らは選ぶわけです。それぐらいクオリティーを上げていただければ、皆さんが選ぶ基準になるかなと思います。

〔知事〕

ワインについては、原産地呼称制度をやるかやらんかという議論があるんですよ。山梨で作られた葡萄で、山梨で生産されたワインという物に対して、山梨産だという呼称を与えると。それも高級品、中級品、低級品というような格を付けて、しかも一定の品質を保証するような形でやるという方法はありますね。しかし、今おっしゃっているのはワインでなくて、一般的な製品について、ちょっと富士山ブランドというのは水準が低くなっているから・・・。

〔参加者〕

水準が低いとは言わないけれども広過ぎる・・・。

〔知事〕

果物については、特選農産物といって非常に品質が高いものがあるんですよ。これは確かに努力のしがいがあるんです。おっしゃるようにそういうことはあるかもしれませんが。ちょっとこれは工夫しないと、工夫というか、また別のものを作らなければいけないかもしれないけど・・・。

〔参加者〕

今の話に関連して、宝石にK o o - f u (クーファー) というブランドがございますよね。プラチナだと、純度が高く、また硬度も高いもので作った品物ということで、年内にアメリカで大々的にPRをするという話も聞いているんですが、やはりそれも基準値が高いんですよ。例えば300年腐らない梅とか、ニットだと一番いい白いカシミアを使った製品とか、基準値を高くして、それで認定した物を山梨のブランドとして出していく。そのブランドの商品はこういう基準の中で認めたものですよということで、国内、海外に売り出すようなことを、5千万円か1億円ぐらい掛けてシステムを作っていたきたい。

富士山ブランドを知らない方はいっぱいいると思うんです。広がっていないんですよ。広がって行って、しかもクオリティーを高くして、認定して売り出す。それを県がバックアップして、海外でもどこでもアピールしていただくということを連携してやっていく。とにかく外から山梨にお金を入れてこない、循環しないと思うんです。

〔知事〕

やっぱり難しいのは、県がやるということになると、色々な意見が来ますからね。税金でやるわけですから。そうするとどうしても富士山ブランドみたいに、少し努力すればクリアできるぐらいのものになるんですね。

一番最高級の、このところだけだよ、ということになると、俺たちの税金を使って、俺たちがどんなに努力してもできないような水準を付けて、特定の業者だけ儲けているじゃないかと、こういう話になるからね。どうしても大衆向きというか、ある程度努力すれば

クリアできるくらいの形になる。どうしても富士山ブランドぐらいになっちゃうんですよ。

〔工業振興課長〕

山形県で山形セレクションという制度をやっておりまして、これは食べ物でも製造品でも何でもやっているんですけども、それは今皆さんがおっしゃったような、そういうレベルのものです。先程のAOCとか、そういう原産地呼称制度というものを山梨県でやっても、2、3日前新聞にも出ていたと思うんですけど、今は甲州葡萄が足りない状況なんですよ。そういう中で、いい物を作れば作るほど葡萄が高くなる。ところが実際にはキロ200円くらいでないと、製造の価格に合わないという現状もございまして、なかなか大変なんです。

〔知事〕

それはまた別の問題として、甲州葡萄が足りなくなるという話は、別途農業政策として考えていかなきゃいかんことですがね。

なかなかそういうブランドというのは県がやるのは難しいですね、非常に。特選農産物みたいに、桃なんかでも場合によっては福島に負けてしまうとか、葡萄も巨峰が長野に負けそうだというような状況になると、やっぱり本当にいい、山梨のトップバターみたいなものを一つ作ろうじゃないかということがある程度認知されるんですがね。色々な商品にということになってくるとなかなか難しいですね。

〔参加者〕

県でやるのが難しいのであれば、県が主導する、何か認証するような機関を作ってもいいかなと思うんです。いろんな業界から一人ずつ出してもらおうとか、やり方としては幾つもあると思うんです。もちろん県が優劣を付けることはなかなか難しいかなとは思いますがね。

〔参加者〕

k o o - f u というブランド自体は県が主導で作ったんじゃないかと思うんですが。

〔知事〕

これもやっぱり経済産業省のジャパブランド事業という補助制度を使いまして、もちろん県も補助金を出してやっていますよね。

〔工業振興課長〕

商工会議所が主体ですよ。

〔参加者〕

じゃあ中央会が中心になってこの事業をやってみましょうか。(笑)

〔知事〕

中央会となると、より大衆向きになってくるんじゃないですか。

〔参加者〕

とにかく少しでも、一歩でも踏み出したいというふうに思うんですね。

〔知事〕

それはそうですね。ちょっと検討してみないといけませんね。

〔参加者〕

富士山ブランドを中央会に委託していただけないでしょうか。

〔工業振興課長〕

もしかすると中央会は団体として認定を受けていて、中央会が認定すればブランドにできるかもしれません。今調べてみます。・中央会では入っていませんが、ニット工業組合は認定されているようですね。

〔参加者〕

話は変わりますが、私は出張で富士山の周りを廻ることが多いんです。スポーツの秋ということで思い付いたんですけど、富士山一周駅伝なんかを、静岡と神奈川と合同で開催してできればいいな、なんて思いまして。

〔知事〕

確か去年そんな話があったんですよね。3県知事会議というのがありまして、3県というのは山梨と静岡と神奈川ですが、その知事会議の時に、一緒に一周駅伝をやろうじゃないかという話があったんですよ。だけど何か障害がありましてね、うまく行かないんですね。確かに構想としてはあるんですよ。

あれはぐるっと一回り廻れば、大体どのぐらいの距離になるんですかな。

〔参加者〕

地図で見た感じだと70～80キロで、道のりで多分100キロ程度じゃないかと思うんです。

〔知事〕

100キロ程度ね。ちょうどいいかもしれませんね。

〔参加者〕

例えば障害者区間を作って、障害者とか車椅子の人たちも参加できるように。いろんなチーム構成でできればいいかななんて・・・。



〔参加者〕

今の話の続きになりますが、富士山一周駅伝というと世界遺産という話が浮かぶんですね。世界遺産登録を、2011年ですか、目指されていますよね。ただ我々はちょっと富士山から離れた所に住んでおまして、郡内地域と意識の差があるかもしれません。またバッファゾーンと言うんですか、緩衝地帯の住民の皆さんの理解を得るのも大変だというお話も伺っています。

そのためにも富士山世界遺産ための一周駅伝とか、何かイベントをして盛り上げていかないと、ちょっとモチベーションが下がっているかもしれないと感じていますので、是非やっていただいたらなというふうに感じました。

〔知事〕

確かにね。両県民だけではなくて、国民的な注目を浴びるようなイベントがあるというのは非常にいいですよ。

確かにそういうイベントがあれば非常にいいと思うんですが・・・。どういうものがあるかですね。

〔参加者〕

私が入っている建設業協会では、富士山の清掃活動を11月18日にやることが決定しています。そういうふうに、みんなでやるんだというのがあると、一つの目標の下にまとまるのかなと思いました。

〔知事〕

富士山周辺では大きな大会を色々やっているんですよ。今年の夏もナイキ(NIKE)というスポーツ会社が、北京オリンピックを記念して世界25カ国で一斉にマラソン大会をやったんですけども、それを本栖湖の周辺でやりました。大勢参加していましたね。来年はIVV(国際市民スポーツ連盟)という、これはウォーキングを中心としたスポーツの大会で、海外から恐らく8千人ぐらいは来るであろうというような、非常に大きな世界大会をやるとか。

ただ富士山周辺でやっていることが、こちらになかなか伝わってこないんですね。

〔参加者〕

世界遺産に結び付けるような何かがあればいいなと思います。

〔参加者〕

私は観光のことについてお聞きしたいと思っています。

山梨県というのは非常に人口も少ないですし、いろんな産業がもちろんありますけれども、素晴らしい自然を生かして、外からたくさん観光に来ていただくというのが非常に大事ではないかと思っております。

いろんな産業がありますけれども、観光も一つの柱になり得る産業ではないかなというふうに感じております。昨年、大河ドラマ「風林火山」が放映されて、多くの方に山梨県

に来ていただいて、そのフォローの風を感じた一人でございますけれども、人がたくさんいると活性化するんだなということを、改めて感じました。

もちろん国内の観光客さんも大事ですけれども、国外からのインバウンド観光、富士山周辺には台湾、香港辺りからかなりの数の観光客がお見えになっているということですが、彼らは東京、富士山、大阪というルートで動いていて、なかなか甲府の方、国中の方に来ていただけない。

難しい面はあるかと思えますけれども、やはりインバウンド観光というのは今後目を離せない重要な要素であると思えますし、インバウンドの観光客につきましても、国内のお客さん共々、少しずつ取り込んでいけるような対策を是非お願いしたい。

我々事業をやっている者も努力しなければいけません、行政もいろんな角度からご支援をいただければというふうに思っております。

〔知事〕

確かにそうですね。外国人観光客は、山梨県の入り込み観光客数としてもかなりの伸びを示していますね。去年1年間で88万人外国人観光客が山梨に来て、その前の年に比べて30%増加していますから、これは相当増加していることは間違いないですよ。

しかしそれはどこに行っているかということ、大部分が富士山の五合目に行って、そしてまたバスで長野県に行ってみたり、静岡県に行ってみたりするという事なんでしょう。もちろんあの地域に泊まる人もいますけれども、なかなか御坂峠を越えて国中地域につながってこない。そこで商工会議所の提言の中に、富士山を核とした観光ルートを作って、富士山プラス国中の方の何かという形で、国中地域にもその波及効果が及び、かつ宿泊客が増えるような、そういう観光ルートの開発をしようということにして、これは全くそのとおりだと思いますね。

インバウンドについてはそこが一番のポイントだと思いますよね。それは是非そういうふうにしていかなきゃいかんと思っています。

東南アジアに行くと言っただけでもうみんな目を輝かしますからね。我々が考えている以上に、彼らにとって富士山は大きな憧れの的ですから。やっぱりこれを売り出していくことは非常に大事なことで、それにプラスして、山梨に滞在してくれるような、そういう仕組みですよ。

大体6時間観光すれば泊まると言いますね。3時間じゃだめなんです。東京から出て、五合目に行って帰ってくれば、3時間ぐらいで終わっちゃうわけですね。そうするとよその県に行っちゃうわけ。だからもう一つどこか見るところがあると、そうすると石和温泉に泊まったりとか、こうなるわけですね。外国人にとって魅力のある、もう一つのスポットというものが大事ですよ。それがまさに一番大きな課題です。

〔参加者〕

今の関連で、産業観光にもうちちょっと力を入れるのがいいかなという気はします。

〔知事〕

ワイナリー巡りとか、そういうのはまさにその一つですよ。

〔参加者〕

現在私どもが営業しております中心街の話です。今中心街を見ますと、もうシャッターが閉まっている通りを多く目にします。去年NHKの大河ドラマ「風林火山」があり、中心にあります情報プラザで「風林火山博」をやったものですから、中心街でも県外からの観光客で潤ったお店が結構あると思うんですが、そういう大きいイベントが終わってしまった今、正直申しまして中心街は人通りもなく閑散としております。それぞれの商店はがんばっておりますけれども。

やはりどうしてもそこの地域に人が住んで、人口が増えないことには成り立たないという商売もあると思いますので、その点について教えていただければと思います。実はもうこういうことを考えていて、こういうことをやるんだよというお話がありましたらお聞かせください。

〔知事〕

中心街の活性化というのは私の大きな課題です。頭の中の何分の一かを占める大きな課題ですが、やっぱり甲府市、あるいは甲府市の商工会議所が中心になってもらわないと、なかなか県が前面に出にくい問題でもあるのですが。

今県で、少なくともこれだけはやるというのは、一つは、2年後に紅梅地区再開発でビルが出来ますね。あの中に宝石美術専門学校を移します。そうするとそこに100人からの学生さんたちが出入りをすることになります。若者が出入りをすることによって活性化にもなりますし、また宝石美術専門学校があるということに伴って、宝石関係があそこに立地してくれるということが、あるいはあるんじゃないかということを楽しんでいるわけですね。

それからもう一つは、これは平成25年になりますけれども、情報プラザですね、あれをつぶしまして、そしてあそこに防災機能を持ったビルを造ることになっているわけですね。警察本部は、今県の恩賜林記念館の南の建物にありますけれども、耐震性が低いんですね。これはやっぱり何とかしなきゃいかんということで。

それから教育委員会の建物もやっぱり耐震上課題があるものですから。教育委員会というのも、学校が避難地になったり、子どもの安全の問題もあるから大事なんですよ。

だから防災拠点ビルを造って、そこに警察と教育委員会、それから災害対策本部をそこに入れるという形で、11階建ての建物を造ることになるわけですね。

1階の部分はオープンになっていて、商業施設などがそこにできるようになるわけですね。

これはPFI方式でやりますから、どういう形がこの中心街の活性化に一番寄与するかということ、民間企業が検討して、商業施設などを経営していくことになるんですけども、恐らく山梨の地場産品みたいなものを販売したりすると思いますね。今ジュエリー協会の皆さんがここに宝石美術館を入れようと言っております。来た人が体験できたり、作っているところを見せたりというようなことも含めて、そういうのもあるかもしれません。

そこに商店街、商業施設があって、山梨のいろんな地場産品をそろえて、観光客がそこ

に立ち寄れるような、まあ「かいてらす」のようなものではないでしょうか。来て楽しいものにしなければなりません。そのためにPFI方式を採るわけです。そういうものを造ることになっています。

それからそういうものができた時には、これも耐震性が低い県民会館、それから警察の建物、これは全部つぶします。そして、将来的に跡地は、例えば1階の部分は買い物客が入れるような駐車場にしまして、できれば無料の、例えば2時間無料だとか、そのぐらいにしたいものですがけれども、2階を蓋にして、そこに芝生だとか木だとか植えたりして、1階は駐車場だけ外から見た限りは公園だというような形にしましてね。お城と雰囲気一致するような、そういう公園を造っていくことも検討して行きたいと思っております。

それから県庁の中を整備をするんですけれども、もう土日であれば自由に県庁の敷地の中を通れるようにしましてね。芝生を植えたりして、日曜日なんかは若いお母さんが子どもを連れてその芝生を歩いているような、そういう県庁全体が公園になるようにオープンな県庁にしたいというふうに思っているんですね。まあ施設的にはそんなことを考えているんです。

それから甲府のお城ですがけれども、鉄御門（くろがねごもん）、銅御門（あかがねごもん）という有名な門の跡があるんですよ。今、門が三つばかり復元されていますから、もう一つ復元するというようなことも考えているんですね。

それから今年県がやるイベントが2つあって、一つは工業振興課が担当なんですけれどもワインですね。情報プラザで山梨ヌーボーまつりを、11月何日でしたか。

〔工業振興課長〕

22日、23日と、29日、30日、いずれも土曜日と日曜日です。

〔知事〕

そのヌーボーまつりが一つと、それから今もう一つやっているのは、中心商店街の活性化に学生さんたちの力を貸してもらおうと。だから各大学に話をして、中心市街地活性化のためのイベントのコンペをしましてね、幾つか当選したところには賞金をやって、学生さんたちに、中心街活性化のために働いてもらうというようなこともしているんですけどね。

とりあえず県はそんなことを考えているんですけれども、あとは市と協力しながらいろんなことをやっていかなきゃいかんというふうに思っています。いずれにしても大きな課題ですね。

〔参加者〕

観光的な施策というのは具体的にはどういうことをやるんですか。

〔知事〕

甲府についてですか、それとも全県的に・・・。

〔参加者〕

全県的に。

〔知事〕

これは説明しだすと時間が足りないくらいたくさんあるわけですね。観光部だけでも幾らぐらいの予算があるんでしょうかね。いろんなことをやっています。

〔参加者〕

予算を出した中で実績は上がっているのですか。

〔知事〕

去年は大河ドラマ「風林火山」の放送で、これは県の施策というよりはイベントとしてですが、一昨年に対して外国人観光客が30%の増加、一般観光客は約10%増加したわけですね。通常であればそれで次の年は観光客数が落ちるんですけども、今年も4月から6月に、destinationキャンペーンというのをやって、東京を中心に、全国5,000のJRの駅に「週末は山梨にいます」のポスターを貼ったりしましたから、その効果があって、今のところ、少なくとも年度前半は、横這いで来ています。

ただここで景気が悪くなってきましたからね。昨日聞いたのですが、やっぱり河口湖温泉なんかはかなり観光客数が落ちてきたらしいですね。

〔参加者〕

一つ提案というか、実行していただければありがたいんですが、外国人観光客が河口湖を通過して県外に出ていってしまうということなんですけれども、もったいないことです。サクランボ狩りやぶどう狩りをセットするとか、ワイナリーや美術館、昇仙峡とセットするとか、そうやってこちらに呼び込んでおいて、地場産品がまとまっている所に寄ってもらうことを考えてほしいのです。施策的にこっちに来るルートの提案をして呼び込まないと、お客さんは来ないと思うんです。

そのためには国内外の旅行会社に、こういうルートでお願いしますと積極的に回ってアピールしてこないと、旅行会社は企画してくれないです。ルートも旅行会社が考えて企画するんじゃなくて、ほとんどは観光地が企画書を持って行ってやっているわけです。

〔知事〕

観光部の仕事というのはまさにそれなんです。もう国内も海外も、要するにその観光ルートとか観光スポットみたいなものを作って、それを提案しているわけですよ。私もトップセールスなんていって、今年は香港から台湾、去年も上海、それから韓国に行きましたけども、例えばソウルならソウルで、韓国の観光旅行社や観光関係のジャーナリストなんかを呼んでPRするんです。かなり分厚い、色々なスポットを説明した提案書も持っていくわけです。そうするとみんな関心を持ってくれます。

結局そのルートを作るのは、若い観光旅行社の社員が提案書を見ながら作っているわけですよ。それを売っているわけですね。

だからちょっとしたそういうPRなんですよね。常にアクセスをして、そして新しいこ

ういういいものがあるよという情報を彼らに投げているかということですね。これはもうまさに観光部の一番の仕事ですから、それはもう抜かりなく一生懸命やっています。

〔参加者〕

ヴァンフォーレ甲府がJ1だった時や、大河ドラマ「風林火山」を放映していた時に思ったのは、リピート客を増やすことです。そのためには、気持ちよく帰ってもらうと。みんな笑顔の声掛け運動をしたり、ソフト面を充実させたり、ごみはみんな拾ってきれいにイメージをよくするとか。また、そこに向けて春夏秋冬の観光マップや、電車由来の人用・車由来のマップを作ればいいのと思います。季節ごとの観光ルートを幾つも出してマップを作れば、「今度秋に来てこのルート行こうか」ということになります。そういうマップを作っていただいて、幅広く広げて、春夏秋冬、年に4回でも6回でも来てもらうと。毎回違うルートで観光できると。一つ検討していただければ・・・。

〔参加者〕

最近特に思うことなんですけれども、それを先に伝えたいと思います。

今食料問題を考えた時に、日本の農政の建て直しというのが急務だと感じています。その建て直しにつながる新しい仕組みづくりを、山梨の農業から発信して行けないかと考えております。

ご存知かと思うんですが、オーストラリア23.7%、カナダ14.5%、フランス12.2%、ドイツ8.4%、イタリア6.2%、オランダ5.8%、スペイン8.9%、スウェーデン8.4%、スイス4.9%、イギリス7.0%、アメリカが12.8%、そして日本が4.0%。それは2003年度の主要国の食料自給率です。昭和36年から調べましたら、当時7.8%あったのが現在3.9%、非常に深刻です。また昨日も冷凍インゲンでの被害があったというニュースが流れておりましたが、そういった食の安全安心というものも脅かされています。食料輸入国日本ですので、現在とこれからを考えた時に、日本の農政の建て直しは急務だと感じているわけです。

例えば遊休地の活用策として、現役の農家の方や高齢の農家の方とかを指導員にして、県内の民間企業の人材とか、都会の若者たちの若い労働力を得る中で、安心して品質が高い作物を作り、山梨の農業が繁栄する仕組みが何かできないかなと思っております。

そうすることによって食料自給率のアップにつながりますし、地元からの安全・安心な食料の提供にもなります。そして県内の雇用率もアップします。県外から山梨に、若い人も都会から引っ張ってくるので、県外から山梨への移住ということにもなります。山梨としては内需拡大にもなります。そして担い手のない高齢の農家の方の生きがいのなものにもなると思います。

食料も外国で輸出制限された時にどうなるのかという心配もありますから、当然として自給率は高めておかなければならないと思います。

そういった農政の建て直しや、山梨県として新しい食料生産、農業、農村の政策の部分ですね、そういったところの方向性というものをお聞かせいただければと思います。

〔知事〕

それは非常に大きな問題ですよ。山梨に限らず日本の大きな問題ですが、基本的にはやっぱり価格の問題なんですよ。

例えばアメリカやオーストラリアも米を作っていますけれども、飛行機で種蒔いているわけですからね。もう何十ヘクタールという水田があってバーッと蒔いて、刈り取るのは大型のコンバインでワーツと刈っていくわけでしょう。そうすると極めて安い、日本の米の数分の一という値段でできるわけですよ。だからなかなか競争力という点で厳しくて、日本の耕作放棄地というのは大体中山間地みたいな地形条件が悪い所にあるわけですから、しかも面積も5反歩とかそんなようなものでしょうからね。そういうところに入っていつて作っても、例えば同じ小麦なら小麦を作っても、採算的に非常に高いものにならざるを得ないですよ。それが半分趣味というようなことで、まあ値段は安くてもいいよということであればそれは話は別ですけども、やはり価格競争力という面でいくと、どうしても負けてしまうということがありますよね。そこが一番難しいですね。

それからもう一つは、やっぱり自給率を上げるとすれば小麦と酪農の飼料です。これの輸入を減らさなきゃいかんということになる。これは食生活そのものを例えば30年前に戻せばいっぺんに60%ぐらいまで上がるんですね、米を中心にしていけば。だけどやっぱりどうしても食生活が西洋型になっているから小麦をたくさん輸入する、それから肉を食べるからその飼料がどうしても必要になってくる。それによって自給率が下がっているわけですね。だから食生活そのものを変えていかないと、なかなか自給率は上がらないということはあると思います。

しかしそうは言っても農業というのはだんだん追い風になってきましたね。メタミドホスの問題などもあったりして、海外に行っても日本の食料品というのは安全でおいしいという評価が高まっていますね。それから国内でもみんなそう思っていますから、農政を転換することによって自給率を上げていくということは、十分その可能性が出てきたと思いますね。値段だけじゃないということになってきますからね。

耕作放棄地みたいなものはたくさんありまして、そこに都会の若者、あるいは退職した団塊の世代の皆さんに、農業はどうですかというと、かなりいるんですよ。ある人が計算したら、東京だけでも400万人の田舎志向、農業志向の人がいると言うんですね。

北杜市の「えがおつなげて」というNPO法人は、増富の山の中でボランティア的に農業をやっているんですけども、三菱地所が関心を持って、是非一つ我々も参加させてくれと。そして何をやるのかと思ったら、三菱地所の社員があそこに行って時々土日に耕したり、三菱地所が持っているマンションの住人の中に、たまには農業もしたいという人がいるそうなので、三菱地所にしてみれば、マンション業の一環として田舎に農地を持って、さあマンションの皆さんここで好きな人はやって下さいというようなことをやったりするわけです。だから企業が非常に関心を持ち始めたんですね。

だから自給率を上げていく意味で、新しい農業を展開していくチャンスにはなっているという感じはしますね。これはいろんなことをやっていかなければいけないと思います。これまた色々言い出したらきりが無い話なんですよ。大変大事な指摘だと思いますね。

〔参加者〕

よろしく申し上げます。

〔参加者〕

人口が減少しておりますよね。山梨県ももうそれは避けられないことだと思います。その中でやっぱり海外の人を誘致すると。それから我々の山梨のブランドを積極的に海外に展開されるということは非常に大事だという事は、知事も先ほどからおっしゃっています。そこでやはり横田基地の軍民共用化ですよね。大きな問題と思うんですよ。

〔知事〕

東京都が中心になってかなりの交渉をしているんです。東京都が非常に努力をして、かなり交渉が詰まってきているようなところもあるんですよ。ただ、今ちょうどアメリカの政権が変わる時ですから、ここ1年ぐらいは交渉できないと言っていましたけれども、一歩ずつ進んでいるという感じは間違いなくあるんです。まあゆっくりと進んでいるという状況で、決して諦めているわけではないです。

〔参加者〕

私は中央線の話させていただきます。東京で会議、あるいは羽田空港を使って、例えば中国地方とか九州、北海道、こういった所に出張する機会が多んですが、その際にお客様と約束する時間がどうしても遅くなってしまいます。これは出発点の甲府駅の発車時刻が問題なんですね。始発時刻がやはり非常にネックなのかなと。東京に向かう特急の終電も、非常に早くて21時ぐらいですかね。そうすると来たお客さんを早く帰らせてしまう。あるいは我々が行くときも、お客さんをお願いして約束の時間を遅らせてもらう。これは非常にネックかなと日頃感じております。そういった部分をできるだけ解消していただければというところです。特急「あずさ」なんかは松本発になりますからそこはどうしても難しいと思いますけれども、せめて「かいじ」は、朝の発車時刻を30分あるいは1時間早めて、最終の特急は遅くしていただくとかという対策をお願いしたい。県外のお客さんも山梨を拠点としてそこから東京に向かうとか、そういった部分で利用できると思います。是非その部分を考えていただくと、人の流入、流出という部分で便利になるのかなと思います。

〔知事〕

明日まさにその話でJR東日本に行くんですよ。今年の1月でしたかね、長野県と一緒に中央東線高速化促進広域期成同盟会というのを作りましてね、その期成同盟会の要望ということで明日行くんですけども、おっしゃるとおりでしてね。いろんな要望がありますけれども、とりあえずは早朝の特急、松本発5時と甲府発6時、新宿着7時半とか8時とか、そういうもの。それから夜は松本発9時、甲府発10時、新宿着11時半とか、それを作ってくれという話を盛んにやっているわけです。

JR東日本もなかなか腰が重いんですが、彼らも今年の夏、土曜・日曜に甲府発6時の特急を出したんですよ、土日に。試しでね。我々は、土日じゃ余りお客さんいないよと言



ったんだけど、案の定乗車率が2割ぐらいで、全然お客さんがいませんねという話なんです。しかしそれは土日だからだめなんだと言っているんですけどね。そういう要望というのは非常に強いですね。

ただ彼らが言うのは、朝例えば甲府発6時で行くと、ちょうど新宿に7時半から8時の間に着くんですが、もうラッシュに入ってくるんですね。そこに特急を入れると通勤電車を4本抜かなければいかんらしいんですよ。そうすると非常にマイナスになっちゃうんだそうですね。ラッシュの時に新しい特急を入れ込むには、通勤電車を4本抜かなければいけないとなると、非常に難しいんだそうです。土日にやったというのはそういう意味なんだそうです。

それで、今、私らが言っているのは、朝6時の特急は立川止まりでいいと。立川というのは線路・ホームがたくさんありますからね。立川は拠点になってきていますから、「あずさ」がみんな止まるようになりましたからね。朝6時の特急は立川止まりでいいと、そうすれば通勤電車に乗り替えていけばいいわけですからね。それを出してくれという話を今盛んにしているところなんです。

それはご要望としてはよくあるんですが、ただ以前も6時台の電車を出したことがあるんですが、余り乗らなかったということを使うんですね。需要の問題があるんです。

国母工業団地の方々なんかも同じことをおっしゃるんですよ。最終の特急電車が早く出ちゃうから、いくらワインでごちそうしようと思っても早く帰さなきゃいかんとか、朝早く東京での会議にどうしても出たいけど、今のじゃ無理だとか言うのです。ただ、いざ作って本当に使うのかということがあった時にね、なかなかそこが難しいところではあるんですけども。しかし、これは本当に要望の大きい問題でね、まあ一生懸命やっているんですけどもね。

〔参加者〕

JRに会うということであれば、お正月とゴールデンウィークとお盆ですね、あずさ回数券が使えないんですよ（笑）。お盆やゴールデンウィークに僕たちが仕事で東京に行く時に、本当にあつやられたと思うんですよ。

〔参加者〕

回数券が使えない期間が長過ぎるんだね。

〔参加者〕

期間が長過ぎるし、せっかく休みだから家族全員が使うのに、割引はそのままでいいと思うんですよ。

みんなが利用する時に割引が使えないというのはちょっと・・・。

〔知事〕

だけでも考えによっちゃ、しかし割引なんだから当然じゃないかと（笑）。空いている時に割り引くんであって、混んでる時に割り引くわけではない。だから（高速道路の）ETCなんかも割り引きますけれども、混んでいる時は割り引かない、空いている時に割り引き

ますから。ある意味じゃ当然と言えば当然かもしれないけども。

〔参加者〕

私は南部町を拠点にしているんですが、うちのほうは最南端、端っこですので、アクセスがよくなるように是非ご努力いただきたい。引き続き道路整備をよろしくお願いします。

〔知事〕

中部横断道ですね。10年以内にはできると。国土交通省も中日本高速道路株式会社も10年以内には造るということで、今一生懸命やっています。南部で言えば中野という所で、今もう工事が幾つか発注されて、中野インターチェンジ周辺の仕事が始まりましたですね。そういうことですから10年以内ということにはなると思います。

ただ、ちょっと想定外のことが起これば、例えば大幅に道路財源が切られちゃうとか、そういうことになるとまたこれはちょっと別ですけれども、そういうことがなければ10年以内にはできると思います。

〔参加者〕

私、ボランティアで子どもへの暴力防止プログラム「CAP」というのをやっております。

長い間PTAにも関わってきまして、甲府市のPTA会長もやらせていただきました。山梨県、日本全体ですが、もう少子化ということで、2050年ぐらいには8千万人台、また2100年には5千万人台というようなことを聞ききます。山梨県の施策として人口増加、子どもたちの支援みたいなことに関して何かあればお聞かせ願いたいです。

〔知事〕

そうですね。なかなか人口増加というの、まだ人によると過去のイメージ、高度成長期のイメージで、高度成長期には、例えば埼玉や千葉や神奈川がどんどん人口が増えましたから、山梨ももっと人口を増やさなければだめだと、東京の人口を持ってこなければいかんと言うけれども、なかなかやっぱり、もう東京だって将来人口は減ってきますからね。そういう意味での人口移動を呼び込むというのはなかなか現実には難しいです。

そうすると出生率を上げるという議論があって、これは少子化対策ということになるんですけども、よく言われているように、やはり子育てをしながらでも女性が勤め働くことができるような状況をつくっていくということですよ。それに尽きると思うんですね。

そのためにはやっぱり保育所です。いわゆる延長保育とか休日保育とか、あるいは0歳児保育とか、そういう保育の充実をするということですね。それからあとはいろんな今子育て支援サークルがありましてね、例えば母子愛育会という、ご婦人たちが子育てをするお母さん方を一生懸命支援したりとか、あるいは児童館みたいな所へ子どもたちがきて、そこで託児といって子どもを預かったりとか、いろんな子育て支援活動がありますから、そういうものを県として応援していくということだと思っただけですね。そういうことは一生懸命やっているんですけどね。

あとはもう、民主党が子ども手当と言っていますけど、児童手当を充実するということ

だと思っんですよ。これはしかし大きい金が掛かりますから、これは消費税を上げるとか、そういうことでないとなかなかできにくいですけども。それはやっぱり県としてはなかなかやりにくい話なものですから、当面は、働きながらでも子育てしやすいような環境をつくるということに尽きるというわけで、そういうことを一生懸命やっているんですけどね。

〔参加者〕

ついでなんですが、私は虐待防止の活動をやっている各学校にも行っているんですが、学校で虐待が発覚した時の、学校、校長サイドでのリスク管理というか、マニュアルがあるのかどうか、その部分のお願いというか、マニュアル作りをしていただきたいということなんです。

〔知事〕

それは家庭での児童虐待が発覚した時のマニュアルということですか。

〔参加者〕

そうですね。私たち学校に入りまして、生徒たちに、虐待がある子はお話に来てねと言っています。もしそこで虐待があった時は学校側に「調べて下さいね。もし本格的になるようでしたら児童相談所のほうに通告して下さい」と伝えます。通告の義務は必ずあるわけですから。そこで時間が経ってしまうと、もしかしたらその間に、ということもありますので。各学校というか、県全体でもリスク管理のマニュアル作りをして、相談していただきたいなど。あれば構わないんですけど、校長先生の話をお聞きすると、児童相談所への通告という、やはりためらうというところがありますので、マニュアルがあればいいのかなと思います。是非よろしくお願ひいたします。

〔知事〕

分かりました。例えばドメスティックバイオレンスとか、それから高齢者虐待ですね、そういうものは確かマニュアルがあったと思うんですが、児童虐待はないんですかね。まあちょっとこれは教育委員会とか、それから児童家庭課とか、そういうところが扱ってまますけど、よく話をしておきます。

〔参加者〕

私はバイオディーゼルネットワークということで、廃食油を集めて燃料に変えて、それを活用するという活動をしています。まず廃食油を集めましょうということで、キャラバンとか色々やっているんですけども、認知度が低いというか、なかなか油が集まらないんですけど、これからは脱化石燃料ということで、そういうものを有効活用していかなければならないと思っんです。

石油はいずれなくなるということ、これは日本というか、世界全体の問題だと思っんです。山梨県でも色々なエネルギーが化石燃料から変わっていくと思っんです。県では化石燃料から新エネルギーへ変えていくことについて、どんなふうにお考えおられるのか。今実際にやっていることがありましたらお聞かせ願ひたいんですけども。

〔知事〕

今、計画を作りつつあるんですけどね。条例も地球温暖化条例というのを作ったり、計画も今年度中ぐらいに作りつつあるわけですが、山梨の場合には、いわゆるクリーンエネルギーの燃料源が随分あるわけですよ。日照時間が一番長いわけですから太陽光発電には適しているし、周りが山で、流れはみんな急流です。農業用水も含めてみんな川の水の流れは早いですよね。だから小水力発電にも適しているし、それからおっしゃったように周りが森ですので、森林のバイオエタノールとか、バイオマスのエネルギーを使うことができます。

2050年には地球全体でCO<sub>2</sub>を半分にしていこうとしていますけれども、その際には日本は60%から80%カットしなければいかんというわけですが、山梨は100%カットするように、100%カットというのはもちろん化石燃料を全く使わないということではなくて、使った分はプラスアルファしようという形で考えているんですけどね。

クリーンエネルギーをできるだけ活用していくということは重要な課題で、来年度の予算でもいろんな支援措置、助成措置を作ろうかというふうに思っているんですけどね。

〔参加者〕

今、山梨大学で燃料電池を専門でやられています、いずれは山梨県で何か具体的にやるということになるんですか。

〔知事〕

あれは極めて専門的なもので、あれだけで新しい産業が起こるというものでもないらしいんです。しかしそれだけでは何ですから、是非燃料電池産業が起こるように、燃料電池を実用化するプロジェクトも山梨県でやろうということで、参加している民間企業がたくさんありますから、一緒に協議会を作ってやろうとしているんです。

例えば水素ステーションを幾つか置いて、私の車をはじめとしてみんな車はできるだけ水素燃料電池車を使うとか、そういうようなことがあると思いますね。それから家庭用の燃料電池も東京ガスが色々開発しています。まだ高いんですけども、技術的には非常にいいですよ。そういうものを大いに支援をすとかしていきたいと思っているんですけどね。

太陽光発電を一生懸命調べているけど、見ていくと結局東京電力の高圧線が走っている所でなければだめなんです。どんなにいい場所があっても、そこまで電線を引っ張ってくるとなるとコスト的に合わないんです。しかし採算が取れない所でも太陽光発電にして、電気を起こして、昼間の間だけですが電気を起こして、それで水素を作れと。水素を作って、水素ステーションに供給すれば、それはそれでもいいわけですよ。そういうことを考えたり、色々やっていかなきゃいかんということだと思いますね。

〔司会〕

そろそろ終了のお時間ですので、最後に感想も含めて知事からお願いします。

〔知事〕

色々貴重なご意見を聞かせていただきまして本当にありがとうございました。それぞれ皆様方がおっしゃっていることは県政の本質に係わるようなお話でありまして、また非常に難しい問題が多いわけでありまして、ご指摘のようなことを一生懸命やっていきたいと思っております。これからもご自身のお仕事の問題はもちろんですが、行政、政治あるいは県政の課題についても関心を持っていただいて、色々また問題提起をしていただければありがたいと思っております。

繰り返しになりますが、厳しい時代になってきますけれども、是非こういう時代こそチャンスだという思いで、一つそれぞれの皆さんの事業をさらに発展させるべくがんばっていただきたいというふうに思います。今日はどうも皆さんありがとうございました。(拍手)

〔司会〕

どうもありがとうございました。まだまだ言い足りないこともあると思いますが、商工労働関係はこちらの3課長、それからその他のことも私どものところにクイックアンサーという制度があります。県のホームページを覗いていただければそこから入れますので、是非ご意見や、ご質問、ご要望などをお寄せいただきたいと思います。今日は本当にご協力ありがとうございました。

〔知事〕

どうもありがとうございました。